



～ 夢ひとすじに ～
宮原中だより

自ら学び 心豊かに たくましく

平成 26 年度 第 10 号
平成 27 年 1 月 7 日 (水) 発行
さいたま市立宮原中学校

メールアドレス
miyahara-j@saitama-city.ed.jp
ホームページアドレス

<http://miyahara-j.saitama-city.ed.jp/>

「五百円紙幣」



校長 やました せいじ
山下 誠二

新年、あけましておめでとうございます。

「元気に登校」「笑顔で下校」できる生徒の育成。そして「さわやかなあいさつ」「校歌を大切に」「靴のかかとを揃える」の行動目標に引き続き取り組んでまいります。本年も宮原中学校の教育活動にご支援、ご協力を賜りますようお願いいたします。よろしく申し上げます。

昨年末の大晦日は、紅白歌合戦を途中で気絶(うつらうつら)することもなく最初から最後まで久しぶりに見ました。もの心ついた時から、大晦日は紅白歌合戦という時代を過ごしてきましたが、今年は、48という3組の歌手たちの顔が、何となくみんな同じに見えてしまう・・・これは、年を取った証拠でしょうか?ところで第1回の紅白歌合戦は、大晦日ではなく1951年1月3日に開催され、出演歌手は、男女ともに7名で、現在生存されているのは、当時、トップバッターで歌われた菅原都々子さんだけだそうです。(当時は、ラジオ放送)また、大晦日に日程が変わったのは、1953年からで、この年からテレビ放映が始まり、現在では、日本一の長寿番組です。最近の紅白歌合戦を見ていて、歌詞の中に「ふるさと」や「あなたの笑顔」「みんなで」などのキ・ワ・ドが多く含まれているような気がします。東日本大震災をはじめ、多くの自然災害を受けた日本の現在の世相を象徴しているようにも思います。何かで思い悩んでいたたり、つらいことがあったり、時には人間関係がギスギスしたりして、そして何よりも毎日が忙しすぎて「ふるさと」や「笑顔」をつい忘れてしまいそうになるのでしょうか。年を取ってくると、ふるさとでの小さい頃のことをよく思い出します。私の小さい頃は、お正月には、空地で凧揚げをしたり、こま回しをしていました。凧が木や電線に引っかかって取れなくなって、みんなで困ったことも、今ではなつかしい思い出です。1日の朝は、郵便屋さんが年賀状を届けてくれるのを郵便受けの前で待ち構えていたものでした。お年玉も親戚だけでなく、近所にあいさつ回りをし、おじさんやおばさんからもらっていました。お年玉の袋の中に、板垣退助肖像の百円札が何枚入っているか。岩倉具視肖像の五百円札が入っていようなら、飛び上がって喜んでいました。今のようにコンビニやお店が、お正月からあいていることはなく、三が日はおせち料理とおもちで過ごし、街に出ると日本髪を結った着物姿の女性が歩いていて、とても華やかだった気がしたものです。今は、あまり普段の休みの日と変わらない街の風景になり、少し寂しい気もしますが・・・。



新しい年を迎え、生徒たちは未来の夢に向かって、新しいスタートを切りました。生徒たちの前向きで輝く気持ちを大切に、3学期も教育活動を進めてまいります。本年もよろしく申し上げます。